

防災情報の高度化(津波・高潮ハザードマップ作成の推進)による避難行動の推進

概要 要: 令和6年能登半島地震において、珠洲市三崎町寺家下出地区では、津波を想定した避難訓練を毎年実施していたことにより、高台に約40世帯90人ほどの地区住民全員が避難。

府省庁名: 国土交通省

■ 実施主体: 石川県珠洲市

■ 実施場所: 石川県珠洲市

■ 事業概要:

- 浸水想定区域やハザードマップの変更・作成等に対して財政的支援を実施。
- 都道府県の検討がより進むよう、津波浸水想定の設定の手引や水害ハザードマップ作成の手引を作成・周知。

■ 災害による被害:

令和6年能登半島地震において、津波によって珠洲市、能登町、志賀町の3市町で合計約190haの浸水が生じた。特に浸水範囲の広い珠洲市における浸水深は、約4mに達したと想定されている(3/12時点: 内閣官房公表)。

■ 事業の効果:

珠洲市にハザードマップが整備され、毎年、訓練を継続実施した結果、令和6年能登半島地震では、珠洲市三崎町寺家下出地区において地区住民全員(約40世帯90人)が短時間で高台に避難した。

